

次期九州大学総長に求められる資質・能力、ミッション、取り組むべき課題

平成 26 年 3 月 18 日
九州大学総長選考会議

九州大学は自律的に改革を続け、教育の質を国際的に保証するとともに常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究教育拠点となることを目指している。この基本理念を実現するため、本学は、経済社会のグローバル化、少子高齢化、厳しい財政事情の環境下において、優れたビジョンを打ち立て、大胆な組織再編や限られた資源の一層効率的な配分を実現する先駆的な改革を推進してきている。次期総長には、本学が進めてきた改革を継承するのみならず、なお一層推進することができる高い見識と強力なリーダーシップが必要である。次期九州大学総長に求められる資質・能力、ミッション、取り組むべき課題は以下のとおりである。

1 求められる資質・能力

- (1) 人格が高潔で、学識が優れ、かつ、我が国を代表する基幹総合大学としての教育研究活動を適切かつ効果的に運営することができる能力を有すること。
- (2) 本学の基本理念を実現するためのビジョンを持ち、それを教職員に浸透させるためのコミュニケーション能力及び実現するための決断力・忍耐力・実行力を有すること。
- (3) 本学の包括的な最終責任者として教職員を指揮監督する自覚と強力なリーダーシップを有すること。
- (4) 国の内外において本学の存在感を示すための発信力を有すること。

2 ミッション

九州大学教育憲章及び学術憲章に則し、世界トップクラスの教育・研究・診療を推進するとともに、「躍進百大」(どの分野においても世界のトップ100大学に躍進する)の実現に取り組むこと。

グローバル化社会で活躍できる人材育成のため、分野横断的な俯瞰力、課題発見・解決能力、自ら学ぶ姿勢と能力を育成する学部・大学院(学府)教育を展開すること。

研究者の自由な発想に基づく研究活動を支援し、世界的な研究拠点を形成すること。

教育・研究・診療のいずれにおいても社会のニーズに応えられるよう社会連携を推進すること。

教育・研究・診療におけるアジアの拠点としての地位を強固にするとともに、国際交流を推進し、九州大学を世界的なブランドとして確立すること。

ガバナンスにおいてボトムアップとトップダウンのバランスを図り、大学全体が一定の経営方針に基づいて管理運営される体制を構築すること。

3 取り組むべき課題

伊都キャンパスへの統合移転を計画的に推進・完了するとともに、箱崎地区等の跡地処分を推進すること。

学部・大学院（学府）教育の充実のため、教育課程の改革、ナンバリング・シラバス・GPA 制度の充実、単位制度の実質化、入試改革に取り組むこと。

グローバル人材を育成するため、学府・研究院制度を活用した国際教養学部構想を具体化し実現すること。

教育・研究・診療活動の充実のため、若手・女性の教員・研究者の増員、学術研究の支援体制の充実に取り組むこと。また、URA など第3の職種の拡充に取り組むこと。

卓越した研究拠点の維持・発展を期して、主幹教授制度の継続的発展のために必要な措置を講じること。

社会のニーズに応えるため、社会人入学の推進、産官学連携活動の充実に取り組むこと。

国際交流推進のため、英語による授業を行うことのできる教員の増員、短期交流プログラムの充実、留学生交流の推進に取り組むこと。

権限と責任の所在を一致させ、機動的な意思決定ができるように学内規則を含む意思決定体制を改革するなど、大胆かつ自主的・自律的にガバナンス改革を推進すること。

大学改革活性化制度の継続やさらなる制度の創設により、自主的・自律的な組織再編成を促進すること。

同窓会組織との連携強化及び九州大学基金の充実に取り組むこと。

政府の要請に応じて審議会等に参画し、大学における教育・研究・診療により得られた成果を広く社会に還元していくこと。

国立大学協会の一員として、国立大学の存在意義を強く社会へ発信するとともに、財政支援、環境整備などにむけ、政府等に積極的に働きかけをしていくこと。

九州経済界の一員として、地域産業の競争力強化、国際交流の拡大、低炭素社会の実現に向けた取り組みなどへの協力を通じて九州地区の経済振興に貢献していくこと。

立地地域の一員として、地元と共に栄え、地域住民の誇りとなる大学として発展し続けられるよう、自治体等と連携・協力していくこと。